

【 検 査 】

364 抗DNA抗体定性（混合性結合組織病）の算定について

《令和6年11月29日》

○ 取扱い

混合性結合組織病（疑い含む。）に対するD014「17」抗DNA抗体定性の算定は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

混合性結合組織病（MCTD）は、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎等の症状が混在する多彩な臨床所見を呈する膠原病の一つであり、抗RNP抗体の介在により特徴づけられる免疫疾患である。したがって、その病像の一つである全身性エリテマトーデス様症状が見られた場合には、それに対応する主要なスクリーニング検査としての抗DNA抗体定性は診断を慎重に行う（確定後の診断の見直しを含む）目的で有用である。

以上のことから、混合性結合組織病（疑い含む。）に対するD014「17」抗DNA抗体定性の算定は、原則として認められると判断した。